

2023年7月14日

日本原子力研究開発機構大洗研究所  
所長 根岸 仁 様

日本共産党茨城県委員会  
委員長 上野 高志  
日本共産党茨城県議団  
県 議 江尻 加那  
日本共産党市町村議員団

### 高速実験炉「常陽」の再稼働に関する質問書

このたびは「常陽」の視察と質疑応答の場を設けていただき、ありがとうございます。

日本共産党は、原型炉「もんじゅ」廃炉決定後、実験炉「常陽」の再稼働と核燃料サイクルの開発について中止を求めてきました。しかし、西村経産相は先の国会で、核燃料サイクルについて「失敗」と口にしながら「経験を踏まえて更に進めていく」と答弁しています。

そこで、「常陽」の再稼働に関して、下記事項を質問いたします。

#### 記

1. 「もんじゅ」の失敗の後、高速炉にどのような目的や意義を展望しているのか。「常陽」の現場として、どのような目的意識で取り組まれているのか。
2. 2007年の実験装置の破損事故等のトラブルの原因や組織のあり方をどのように総括し、その後の改修作業のプロセスで何を学び解決したのか。
3. 2017年6月の大洗研究開発センター燃料研究棟における汚染と作業員の被ばく事故後、保管状態が不適切として原子力規制委員会から是正指導を受けたが、これまでにどのように改善されたのか。
4. 再稼働に向けて熱出力を下げた理由は何か。熱出力を下げる炉心の変更とは、具体的にどのような改修なのか。
5. 常陽の施設・設備・配管等や原子炉の老朽化はどのような状態か。再稼働に向けて、どのように更新、改修されるのか。
6. 再稼働に向けた原子力規制委員会の審査や工事計画のほか、県や大洗町など関係自治体への説明と事前了解など、今後予定される手続きはどのようなものか。

7. 再稼働にあたって、近隣自治体は原子力災害対策指針にもとづく避難計画を策定しているが、どのような災害が想定されるのか。指針によれば、施設から半径5 km が対象エリアとされるが、リスクが5 km の範囲でとどまる根拠はどのようなものか。
8. ナトリウム火災について、どこでどのような規模の火災を想定し、防止策や発生後の備えはどのように講じられているのか。
9. 建物や原子炉がある地盤はどのような地質構造で、耐震性はどのように強化されるのか。
10. 再稼働の際に使用する燃料はどのように製造、貯蔵されているのか。
11. これまでの運転による使用済み燃料やナトリウムはどのように処理・処分されるのか。
12. 再稼働の安全性や必要性および経済性などについて、県民にどのように説明するのか。
13. 医療用ラジオアイソトープの製造について、既存の加速器での製造では不足なのか。「常陽」での開発による大量製造が必要であるなら、どの程度の量が想定されているのか。
14. 現在の研究所において、常陽の稼働に従事した経験のある所員はどのくらいいるのか。未経験の所員の研修はどのように行われているのか。
15. 2016年に廃炉を決定した高速増殖原型炉もんじゅについて、廃炉作業は2047年に完了と報道された(7月8日付福井新聞)が、常陽が廃炉を決定した場合、施設の解体撤去や敷地を更地にするには何年間を要すると見込んでいるか。現時点で再稼働せずに廃炉に進む場合と、一定期間稼働してからの場合で必要年数に違いがあるのか。

以上について、7月24日に回答および説明いただけますようお願いいたします。できましたら、回答や説明の主旨について、当日、文書や資料をご用意いただければ意見交換や質疑がスムーズに進むかと思しますのでご検討ください。